

◆TEKU・TEKU 2018★吉阪建築展+本郷企画（活動記録）◆

企 画■建築家の原点を訪ねて（その4）～吉阪隆正のDESCONT を考え、本郷界隈を歩く～

日 時■2018年8月18日（土）14:00～17:00

コース■国立近現代建築資料館「建築からまちへ1945-1970/戦後の都市へのまなざし」+ギャラリートーク
～ 湯島ハイタウン ～ 文京区教育センター+文京体育館 ～ 本郷さかえビル+本郷中央教会

参加者■◎井手幸人、安藤 文、大竹 亮、桜井香織、重永真理子、高橋 謙、水谷晴子

（以上7名、◎コーディネイター、敬称略）

企画主旨■国立近現代建築資料館「建築からまちへ1945-1970/戦後の都市へのまなざし」展（6/9-9/9）では、坂倉準三、池辺陽、大高正人、吉阪隆正の4人の建築家を採り上げ、戦後復興・高度成長という効率重視の時代にあつて、いかに都市の再構築を思い描き、目指したのかを究明しています。当日はギャラリートーク「吉阪隆正+U 研究室：大島町元町復興計画を動かした不連続統一体と発見的方法」（齊藤祐子×内田文雄）が開催されます。国際探検家でもあった吉阪は、DESCONTO という独創的な方法を用いて、丹念に地域を読み込んだ上で大胆かつ実践的な計画を提案しました。これを手掛かりに、戦後の建築家たちの意欲的かつ創造的な都市への視点に迫ります。終了後は湯島・本郷界隈のまちを歩き、建築と都市との関係を実感しましょう。



ギャラリートーク「吉阪隆正の方法論」

<参加者の意見・評価>

1◆国立近現代建築資料館/建築からまちへ1945-1970 展

評価●4.43 内訳●AAAAABB

評価A●建築家がまちづくりに関与していた時代であったことがわかった。当時の手描きの図面から、その当時の建築家のまちに対する熱意が伝わってきた。

評価A●建築家の都市への情熱が伝わってくる。ギャラリートークで吉阪隆正の方法論がよく理解できた。

評価A●ギャラリートークを聞いてから展示を見ると、今回の展示の趣旨もよく理解できます。坂倉、大高、池辺さんの回にも参加すればよかった。

評価A●通常無料で入れる施設とは思えないほど、展示内容が充実していて素晴らしかったです。

評価A●本当はもっと建築不動産を扱う人に見てもらい、一度現状を確認する必要があるのではないかと思います。

評価B●各展示物に作者達の作成当時の思いや息遣いを感じました。

評価B●坂倉、池辺、大高、吉阪という「個性」を横並びにすることで、その時代と個性の力強さが浮かび上がってくる気がしました。予習、復習が必要な展覧会。坂倉の渋谷駅整備は確かに、駅という機能を、都市の中に埋め込み、それを建築という手段で実現した新鮮さを改めて感じた。

2◆吉阪隆正の建築思想と実践について、展示・ギャラリートークからどのように感じたか？

特に、DESCONT（不連続統一体）という方法論は、現代においても有効と考えられるか？

●吉阪の調査に対する考え、方法論が、大島町の調査・実践で、確立されていったとは知りませんでした。勉強になりました。また、展示されていた大島町・元町の図面からは、設計者の熱い思いが伝わってきました。DESCONT、もちろん現代でも有効な方法論だと思います。

●DESCONT は、現代でも十分有効なものだと思います。トーク中、最近の建築家は、周辺環境から閉じて自己で完結する、とおっしゃっていたのがとても衝撃的で、まさにその通りであると今更ながら気がつかされました。周辺環境を読むことから始めて設計すること、すごく当たり前なようできて、とても重要だと思いました。

●吉阪隆正が実践を大切にしていたことが、良くわかった。建築単体ではなく、まち全体を考慮している姿勢が感じられた。DESCONT という方法論の理論は、現代においても十分有効と考えられる。ただ、朝早くから夜遅くまで働く当時の仕事のやり方は、現代には受け入れられ難いと思う。

●吉阪隆正のゲリラ的な行動力の底にある「まちづくり」への情念が伝わりました。大島復興計画で語られた、移転前の「墓地」を歩いて見たかった。地方で「記憶」をつなぐ地域づくりを考える時にインスピレーションが湧くのでは、と思います。DESCONT の楽天性は心のどこかで活かし続けたい。

●探検家でもあった吉阪の建築が「人間ひとりが実際にできること」を原点に等身大で考えられ、かつきわめて実践的であることを理解できた（自邸はもちろんアテネフランセも大学セミナーハウスも）。経済優先の現代建築では空間が機能別に最適化されるため、人間は勤労者、消費者、観光客、居住者などに役割が断片化されるが、「不連続統一体」では人間を総体として捉えて矛盾は空間の方が引き受けるので、人間疎外に陥らない。

- 「不連続統一性」というのは私には難しい言葉ですが、多様性とか多重という言葉で捉えるならば、現代においてもキーワードだと思います。
- いろんな意見があると思うが、実は大事な点を再確認し、それをベースに町を生かしていこうとすることは有効と考える。ただ、建築のデザインは好き好きがあるのでそこは、その町の再生に必要なデザインで進めても良いかと思う。

3◆「本郷中央教会」と「さかえビル」について

評価●4. 60 内訳●AAAAB

- 評価A●春日通りに面してファサードが並び、特に本郷中央教会は比類ない壮麗さ。なんとか残したいもの。
- 評価A●昭和初期に建てられた両ビルとも地域のランドマークとして貴重な建物。道路拡張で失うのは残念。保存されるといいのですが。
- 評価A●どちらも健在で嬉しく思いました。現代にない、なんとなくお洒落で可愛いデザイン、長く残してほしいものです。
- 評価A●「本郷中央教会」が綺麗に維持管理されており良かった。都市計画道路による今後の心配だが「曳家」などの方法で、塔と前面のデザインは残してほしい。
- 評価B●できれば残してもらいたいのですが、難しい状況にあるようですね。



4■その他、今回の企画に対する感想など（自由記入）

- 歩いていて見つけた建物：①東大広報センター/旧医師会事務局（1925 年、写真左）。本郷キャンパスを構成する内田ゴシックの建築群の中にあって、ドイツ表現主義的な岸田日出刀のデザインがキラリと輝く名作。
- ②住宅街にあるコルビジエ？（右）坂倉、吉坂といったコルビジエ世代の建築家の展示会の後、住宅街で見つけたコルビジエ風の建物。思わず写真を撮ってしまいました。（i/y）



- 集合前に、久しぶりに岩崎邸を見学しました。細部まで丁寧な造りに感動し、技術が失われてしまうことがないように保存して行ってほしいです。（s/k）
- 国立近現代建築資料館は、建築に関する資料と企画が充実している。今後の企画に期待したい。（m/h）
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。（t/k）
- 吉阪隆正についてはあまり知らなかったが、世界的探検家（知の探索ではなく本当に未開地へ行く）でもあったと知って驚き、しかし彼の建築の原点が理解できた。妙に巨大化して表層は綺麗になっていく都市再生ばかりの現代にあって、人間を中心に据える建築や都市のあり方について考えさせられた。（o/r）
- 不動産屋主導のまちづくりは、使う人が主ではなく、儲かるかどうか为主体になってしまうので、生きた街をつくるには残念な状況だと思う。今後も弱りかけた街を生きている街にしているまちづくりの例があれば見たいと思います。（a/a）